

年頭所感

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年は、東日本大震災が発生し、またその影響を受けた電力不足等により、皆様には大変なご苦労があったことと存じます。このような状況にあって、当社は、国際商品を上場する取引所として、海外市場での価格との連動性が保たれるよう、また、価格発見機能等の市場機能を提供するため、できる限り売買の機会を提供することが使命と考え、市場運営に努めてまいりました。

翻って、海外に目を向ければ、欧州債務問題に端を発した世界経済の混乱により、金融市場に動揺が広まった 1 年でした。こうした状況を背景に、安全資産としての金に資金が流入し、国内外の市場において史上最高値を更新するなど、分散投資先の一つとして商品市場に対する関心が高まった年でもありました。

また、昨年は、商品先物業界全体で大きな改革が行われました。「商品先物取引法」の施行により、国内外の取引所及び店頭商品デリバティブ取引について横断的な規制体系が整備され、不招請勧誘が禁止されました。と同時に、この例外として、あらかじめ決められた水準の損失を限度とすることができる仕組みによる「損失限定取引」が導入されました。さらに、JCCH がスパン証拠金制度を導入し、証拠金制度においても国際標準の制度が整いました。

昨年は、長年に亘り、当社及び商品業界全体が取り組んできた、市場信頼性の向上や、グローバルスタンダードの市場整備を目的とした施策等がようやく実を結び始めた年であったと考えます。2003 年をピークに低迷していた国内商品取引所の取引高に回復の兆しが見え始め、当社市場の取引高についても、昨年は前年比でプラスに転じました。本年はこの回復基調を確たるものとするべく、以下の施策に、役職員一丸となって取り組んでまいり所存です。

第一に、新たな市場仲介者の獲得に向けた取組みを引き続き進めていきます。海外投資家及びプロ投資家の獲得のため、グローバルに展開する国内外の大手金融機関に対する営業を強化し、受託取引参加者及び他社清算参加者として当社市場への参入を促進します。また、個人投資家の獲得のため、ネット系証券会社や FX 会社に対する営業を強化し、当社市場への参入を促進します。

第二に、個人投資家や当業者等の市場参加者向けに、受託取引参加者との共催セミナーや Web セミナー等の啓発活動等を通じて、既存取引参加者との協力を行います。また、既存取引参加者との情報交換を密に行いそのニーズの取込みも積極的に行いたいと考えています。

第三に、魅力ある投資商品の開発を行います。当社の主力商品である「金」を活用した投資商品の開発について、市場参加者のニーズ等を十分に踏まえ、引続き取り組んでいきます。

本年は、当社にとって、取引システム更改や株式公開等の課題を控え、大きな舵取りを迫られる年となります。

皆様方の益々のご発展とご多幸を心よりお祈り申し上げますとともに、本年も何卒一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。